

高校生が薬剤師の現場を見学



県内で不足している薬剤師の人材確保につなげようと高校生を対象に薬剤師の仕事の見学会が由布市の病院で開かれました。

見学会は大分大学医学部附属病院薬剤部が薬剤師の仕事に興味を持ってもらおうと初めて開いたもので、県内の高校生60人あまりが参加しました。見学会では薬剤師の仕事について説明が行われ、仕事の内容や新たな医薬品の開発が大きな社会貢献につながるなどが紹介されました。このあと高校生たちは実際に薬剤師の仕事の様子を見学し、2種類の医薬品を混ぜて薬を調合する様子などを興味深そうに見ていました。厚生労働省の平成24年度の調査では、県内の病院や薬局などで働く薬剤師は2000人あまりいますが、人口10万人あたりでみると全国平均を下回っています。これは県内に薬学部を設置している大学がないことなどが背景にあるとみられ、薬剤師の確保が課題となっています。見学会に参加した高校2年生の女子生徒は「薬を作るだけでなく研究するなど医者のように患者1人1人のことを考えているのがわかり、薬剤師になりたいと思いました」と話していました。

また、大分大学医学部附属病院薬剤部の伊東弘樹部長は「現場を見ることで仕事の重さを理解するとともに興味を持ってもらい、薬剤師になる学生が増えることを期待しています」と話していました。

8月11日 NHK 大分ニュース